

# デザイン学部

教養部会教授 菅嶋 康浩

## 1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
健康づくり支援の理解と実践	2011. 2	師勝保健所	ウォーキングイベントの参加者に対しウォーキングの効用について講演。
全日本スキー連盟指導員研修会	2010. 9. 17	愛知県スキー連盟	研修会役員
全日本スキー連盟東海北陸ブロック技術員研修会	2010. 11. 27 ～ 11. 28	愛知県スキー連盟	研修会役員
平成 22 年度愛知県スキー技術選手権大会（兼 平成 22 年度全日本スキー技術選手権愛知県代表選手選考会）	2011. 1. 29 ～ 1. 30	愛知県スキー連盟	審判役員
全日本スキー連盟指導員研修会 朴の木会場	2011. 2. 19 ～ 2. 20	愛知県スキー連盟	講師
全日本スキー連盟準指導員検定会	2011. 3. 5 ～ 3. 6	愛知県スキー連盟	検定役員

## 2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等	g その他教育活動上特筆すべき事項
授業科目 健康体力概説 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 工夫の概要	
<授業形式> power point を活用しスライド提示によるプレゼンテーションを実施。教科書指定はなく、授業のテーマに合う内容の資料収集精査してスライド化する。また全スライドと授業ノートを配布して授業内容の記録に活用させる。学生の授業参加を促すために、配布資料は虫食い穴埋め式になっており、スライド内に出てくるキーワードなどを書き込んでいくようにしている。<内容>健康科学の意義目的と本講義の位置づけについて、運動不足の影響、健康の阻害因子についてテーマごとに概説。そして運動実践の意義と具体的方法について紹介する。<毎授業での感想レポート>毎授業でテーマに対する感想レポートを書かせて提出させる。これにより健康に関する自分なりの考え方を確立させる。	① power point によるスライド（教科書指定はなく、授業のテーマに合う内容の資料をスライド化）。②配布資料（毎時間全スライド）。③筆記用授業ノート。すべて自作。

授業科目 スキースノーボード教室 (スポーツ実習: 学外授業)	
□前期 ◆後期 (集中授業: 3泊4日)	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>&lt;事前講習等&gt;実習説明会、事前講習会の実施。その際、技術指導の資料を配布。&lt;現地講習&gt;現地インストラクターを含めた技術レベル別実技指導の実施。指導者による実習中のビデオ撮影。夕食後班別ミーティングの実施。その際、市販のDVDやビデオ教材と実習中に撮影した映像により技術的チェックとアドバイス指導を実施。自作の自習日誌を配布し、毎日の感想や課題など実習記録を記述させる。&lt;課題提出&gt;全日程終了後に実習レポートの提出を義務付ける。</p>	<p>①配布資料 (オリジナル) 作成、②ビデオ、DVD資料 (市販)、③実習日誌、④撮影したビデオ映像資料。</p>
授業科目 卓球 (スポーツ実習)	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>&lt;第1回目&gt;授業ガイダンス。健康科学における実技を伴う演習科目として位置づけられた同科目の目標と意義の説明と理解を深める。&lt;2回目以降&gt;卓球の実践。技術レベルに応じて、基本的技術の取得、ルールの理解、シングルス、ダブルスなど卓球種目特性の理解を深めるよう授業を展開。シングルス、ダブルスをより理解するためにゲーム (リーグ戦) を採用。実践的技術の取得を図るために、リーグ戦結果に基づき、上位、下位リーグ間メンバー入れ替えを行う。これにより学生のモチベーションの維持・向上を図る。後半は団体戦とし、チームワークの難しさや面白さを知るとともに、チーム内コミュニケーションを積極的にとることなど、スポーツを通じた人間関係の構築する能力を身に着けるようにする。&lt;健康維持管理に関する授業&gt;全開講数の中で1、2回健康科学の位置づけとして自己健康管理ができるようになるためのフィットネス講座を実施。学内フィットネス施設を利用して実践方法を指導する。</p>	<p>①健康科学の目的、スポーツ実習の位置づけと意義についての資料、②卓球技術資料、③リーグ表、④卓球ルールについての資料⑤団体戦についての説明資料。(いずれもオリジナル)</p>

授業科目 テニス（スポーツ実習）	
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>&lt;第1回目&gt;授業ガイダンス。健康科学における実技を伴う演習科目として位置づけられた同科目の目標と意義の説明と理解を深める。&lt;2回目以降&gt;テニスの実践。技術レベルに応じて、基本的技術の取得、ルールの理解、シングルス、ダブルスなど卓球種目特性の理解を深めるよう授業を展開。シングルス、ダブルスをより理解するために、簡易ゲーム（ストローク合戦、1ポイント勝ち残りゲーム）から正式ルールに準ずるマッチゲーム（1ゲームマッチゲーム、2ゲーム先取ゲーム）へと展開。授業ごとにテーマを決め（例えば、ストロークの習得、ボレーの習得、フットワークを使う、ダブルスにおけるコンビネーションなど）1授業の全体の1/3を技術練習、2/3を実践練習として構成。施設と受講学生数の関係から、授業効果を考慮して、主に実践練習にはダブルスゲームを採用。半期間の終盤には団体戦としてゲームを行う。これを通して、チームワークの難しさや面白さを知るとともに、チーム内コミュニケーションを積極的にとることなど、スポーツを通じた人間関係の構築する能力を身に着けるようにする。&lt;健康維持管理に関する授業&gt;全開講数の中で1、2回健康科学の位置づけとして自己健康管理ができるようになるためのフィットネス講座を実施。学内フィットネス施設を利用して実践方法を指導する。</p>	<p>①健康科学の目的、スポーツ実習の位置づけと意義についての資料、②技術資料、③リーグ表、④ルールについての資料⑤団体戦についての説明資料。（いずれもオリジナル）</p>

授業科目 卓球 (スポーツ実習)		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
<p>&lt;第1回目&gt;授業ガイダンス。健康科学における実技を伴う演習科目として位置づけられた同科目の目標と意義の説明と理解を深める。&lt;2回目以降&gt;卓球の実践。技術レベルに応じて、基本的技術の取得、ルールの理解、シングルス、ダブルスなど卓球種目特性の理解を深めるよう授業を展開。シングルス、ダブルスをより理解するためにゲーム(リーグ戦)を採用。実践的技術の取得を図るために、リーグ戦結果に基づき、上位、下位リーグ間メンバー入れ替えを行う。これにより学生のモチベーションの維持・向上を図る。後半は団体戦とし、チームワークの難しさや面白さを知るとともに、チーム内コミュニケーションを積極的にとることなど、スポーツを通じた人間関係の構築する能力を身に着けるようにする。&lt;健康維持管理に関する実践指導&gt;自己健康管理ができるように、学内フィットネス施設にてフィットネスの目的と意義、実践方法を指導する。</p>	<p>①健康科学の目的、スポーツ実習の位置づけと意義についての資料、②技術資料、③リーグ表、④ルールについての資料⑤団体戦についての説明資料。(いずれもオリジナル)</p>	
授業科目 フットサル (スポーツ実習)		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
<p>&lt;第1回目&gt;授業ガイダンス。健康科学における実技を伴う演習科目として位置づけられた同科目の目標と意義の説明と理解を深める。&lt;2回目以降&gt;フットサル(室内サッカー)の実践。技術レベルに応じて、基本的技術の取得、ルールの理解、種目特性の理解を深めるよう授業を展開。種目をより理解できるように、ゲーム(リーグ戦)を採用。これにより学生のモチベーションの維持・向上を図るだけでなく、チームワークの難しさや面白さを知るとともに、チーム内コミュニケーションを積極的にとることなど、スポーツを通じた人間関係の構築する能力を身に着けるようにする。&lt;健康維持管理に関する実践指導&gt;自己健康管理ができるように、学内フィットネス施設にてフィットネスの目的と意義、実践方法を指導する。</p>	<p>①健康科学の目的、スポーツ実習の位置づけと意義についての資料、②技術資料、③対戦表、④ルール・ゲームの進め方についての資料。(いずれもオリジナル)</p>	

授業科目 デザイン基礎演習		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
<p>&lt;第1回目&gt;授業ガイダンス。ものづくり基本と考えられるユーザーの感覚の重要性を心理学的及び生理学的尺度法を用いて理解することを目標とする。&lt;2回目以降&gt;SD法による心地よさの分析、筋電図を測り疲労度を調べる。</p>	<p>①目的、意義についての資料、②手法等の資料、③実験装置の利用。(いずれもオリジナル)</p>	

### 3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
日本体育学会	1982～現在	正会員
日本体力医学会	1983～現在	正会員
日本バイオメカニクス学会	1985～現在	正会員
日本宇宙航空環境医学会	1985～現在	評議員
日本健康医学会	2004～現在	評議員
北名古屋市ふれあいスポーツクラブ推進委員会	2001～現在	理事
全日本スキー連盟	2006～現在	ブロック技術員
愛知県スキー連盟	2002～現在	専門委員
大口町指定管理審議委員会	2009	委員
ウォーキングサークル NEW	2003～現在	代表
東海体育学会	2010～2011	理事